

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。

- 1 「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
- 2 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
- 3 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

1 進路を実現させるための学習指導の充実

(1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「わかる授業、力が付いたと実感できる授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 校内における研究授業や授業アンケートの結果を活用するとともに、アクティブ・ラーニングの先進校等を研究し、本校の実践に反映させる。
 - イ 校内のICT環境の整備に伴い、ICTを積極的に活用した授業改善に向けて研究を進める。
 - ウ 学習合宿などの実施を含め、生徒の自学自習環境を整備し、生徒の自学自習力を伸ばす。
 - エ 各教科と「課題研究」との有機的な関連付けを明確にし、思考力、判断力、表現力を効果的に育成する。
- ※ 授業評価アンケートにおける満足度を80%以上に定着させる。

(2) 生徒の進路実現につながるようカリキュラムの点検と開発を行う。

- ア 65分授業や少人数指導の効果を検証し、指導方法をよりよいものに改善する。
 - イ 新教育課程に準拠した大学入試及び生徒のニーズに対応するため、教育課程の検証と見直しを行う。
- ※ 畷高アンケートにおける65分授業への生徒の満足度を平成27年度までに80%以上(平成25年度は70%)に引き上げる。

2 社会に貢献する人間力あふれる人材育成

(1) グローバル社会のリーダーとしてふさわしい人材となるよう、基本的な生活習慣及び規範意識並びに人間関係構築力の醸成を図る。

- ア 生徒会活動、部活動のさらなる充実と活性化を図る。
 - イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導を徹底する。
- ※ 複数の部活動における近畿大会への出場を継続させるとともに、全国大会への出場を実現する。
※ 平成27年度までに年間遅刻回数を1,000未満に減らす。(H25 1,486名 H24 1,807名)

(2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力の育成を図る。

- ア 1年次11月の「情報プレゼンテーション大会(霜月杯)」、1年次2月の「英語暗誦大会(如月杯)」、2年次の課題研究成果発表会、SSH合同発表会など発表の機会を充実させるとともにさらなるレベルアップをめざす。

(3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。

- ア すでに交流を行っている台湾及びオーストラリアに加え、ドイツ及びASEAN諸国との交流を進める。その際、大学や関係機関の協力を得ながら、テレビ会議システムなどを活用した新たな交流に取り組む。
 - イ 国際共通言語としての英語が使えるようSETを導入し、TOEICやTOEFLの受験を奨励し、実用英語力の向上を図る。
- ※平成28年度までにTOEFLiBTで60点以上が40名、80点以上を10名以上出す。

(4) 地域に信頼される学校づくりを推進するため、地域への貢献活動を充実させる。

- ア 四條畷市の「エネルギーインフラプロジェクト」に協力し、本校のSSH事業との連携を強化する。
 - イ 四條畷市の姉妹都市であるドイツのメアブッシュ市との交流を進め、市内の小中学校との交流を進める。
 - ウ 部活動や学校行事等を通して、地域に貢献する機会を増やす。
- ※四條畷市内中学校からの入学者を平成28年度までに定員の10%以上(平成25年度4.4%)を増やす。

3 学校組織運営の効率化

(1) 校内統合ICTの導入に伴い、既存の分掌業務の見直しを行うとともに、新たな分掌の立ち上げに向けた検討を行う。

- ア 情報処理委員会をはじめとしたICTに関連する業務全体の洗い出しと業務の効率化を図るための業務分担の見直しを行う。
- ※平成27年度の情報部(仮称)設置に向けて平成26年11月までに分掌の見直しを行う。

(2) 畷プロジェクトチームの業務内容及び構成メンバーの見直しを行い、学校運営の効率化を図る。

- ア 年間行事として軌道に乗っている業務については、その内容を精査した上で分掌や教科に割り振る。
 - イ 畷プロジェクトチームの役割分担を見直し、GLHS事業及びSSH事業への対応を円滑に行えるようにする。
- 「畷プロジェクトチーム」は現在、国際交流企画班、広報情報分析班、科学教育班の三つからなる組織である。国際交流企画班をGLHS企画班(仮称)とし、GLHS10校や大学との連携及び国際交流事業を担当、科学教育班はSSH関連事業を担当し、SSH委員会との調整を行い、広報情報分析班は、学校説明会の企画や畷高アンケート、授業評価アンケートの実施及び分析を行う。
- ※ 平成26年度は試行として、畷プロジェクトチームの組織見直し作業を行い、平成27年度から新たなチームとして改編する。
※ 年間5回実施している学校説明会への参加者2,500名以上を維持させる(H25は2,609名)。
※ SSH全国発表会での入賞をめざすと同時に、各種コンクールに積極的に応募し複数の受賞をめざす。

(3) 一人一人の進路希望に応じた進路を実現させるため、進路指導体制を充実させる。

- ア 「入れる大学」から「入りたい大学へ」と生徒の進路実現に向けた進路指導を徹底する。
- ※ 第一志望現役合格率50%以上をめざす。また、京都大・大阪大・神戸大への合格者総数80名以上(H26 84名 H25 65名)を維持する。
- イ 教員対象のスキルアップ研修を定期的実施し、全教員の進路指導力を向上させる。
- ※ 進路指導部の分析データを教職員全員で共有し、外部講師による「スキルアップ研修」への参加率80%以上とする。

(4) 安全で安心して学校生活を送れるように環境を整備する。

- ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の生徒相談体制をより一層充実し、支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるようにする。
- イ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に対する満足度は、生徒93%(昨年91%)と昨年比2ポイント増である。93%の内訳は「満足」が60%(昨年52%)、「やや満足」が33%(昨年40%)と内容がずいぶん良くなっている。また、保護者は昨年と同じ99%であった。 ・学校に対する満足度の高さによるものかもしれないが、後輩に畷高進学を勧めたいと思うかという質問には91%が勧めたいと考えている(昨年90%)。 ・94%の保護者が授業参観、学校行事等で本校を訪れるほど学校に関心をもっている一方、保護者に対する情報提供については13%が不足を感じているので、HP、メルマガ等も含めて情報の発信にさらに努める必要がある。 ・教職員からの意見では、「学校運営に教職員の意見が反映されているか」に対して、57%が否定的な意見で昨年度より8ポイント増加している。「職員会議などの会議が有効に機能しているか」についても65%が否定的な意見で昨年よりも25ポイント増加している。内規の見直しの影響や多忙化に伴い、職員同士でじっくり議論する時間がもてていないため、情報共有や議論の場を確保するなど改善の必要がある。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教え方に工夫をしている教員が多い」の項目は86%の生徒が肯定的に答えている(昨年78%)。ICT活用授業の増加、アクティブ・ラーニングに関する研修の効果が徐々に表れてきていると考えられる。 ・「畷高の授業で必要な力がつく」と感じている生徒は1年が94%(昨年94%)、2年が96%(昨年91%)と2年が昨年度より5ポイント上がった。 ・65分授業についての満足度は75%(昨年70%)と5ポイント上がったが、保護者の満足度94%とは依然開きがある。 ・月曜6限授業についても肯定的評価が今年50%となり、昨年より8ポイント上昇した。教員による授業改善、生徒の意識の変化等によるものと考えられる。 ・「先生は質問によく答えてくれる」は97%が肯定的評価で、そのうち、よく答えてくれるが1年で72%、2年で65%と非常に高いのは、授業中あるいは授業外、とくに放課後の丁寧な指導が反映されていると思われる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・78%強の生徒が自分の健康管理に気を付けている一方で、ストレスをため込まない対処方法を持っている生徒は63%と決して高くはない。ストレスマネジメント講習等充実させる必要がある。 ・ごみの減量などの環境問題への取り組みや清掃活動への取り組みに対する否定的評価はそれぞれ41%と19%と他の項目に比べて高くなっている。日常的な指導がさらに必要である。 ・「人権・生命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多いか」という質問に対し、31%が否定的な回答をしており、保護者からの意見にもそれらを身に付けさせてほしいという意見があった。来年度の人権教育計画の参考としたい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年新たにアンケート項目に入れた国際交流の取組については肯定的評価が87%と高く、生徒に浸透しているものと考えられる。 ・施設・設備面では、トイレと食堂に関しての改善要望が生徒の記述に多かった。トイレは特に男子トイレの異臭、食堂は価格面についての内容が多い。 	<p>第1回(5月27日開催)</p> <p>議題【「平成25年度 学校経営計画及び学校評価」、「平成26年度 学校経営計画」、保護者からの「意見書」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員からアクティブ・ラーニングの取組み、ICT活用の進捗状況、SSHとSGHアソシエイト指定を受けての業務負担等についての質問があり、それぞれアクティブ・ラーニングの校内研修を考えていること、電子黒板・iPadを導入したこと、SSHについて3年目となり事務手続きがスムーズになったこと等を学校から回答した。 ・「何が何でも国公立」という雰囲気になっていないかという「意見書」について委員から将来のキャリアデザインを考えて進路指導を行ってほしいという要望があった。学校からは、生徒のほとんどが国公立大学への進学を第一志望に考えており、それを実現させる指導は継続するが、個別指導をさらに充実させるとともにこれまで以上に保護者にも丁寧に説明していくことを回答した。 <p>第2回(11月10日開催)</p> <p>議題【ICTを利用した「授業見学」及び「平成26年度学校経営計画及び学校評価」の進捗状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学した授業についてICTを活用した授業の実態がつかめてよかったとの感想をいただいた。 ・委員から生徒相談体制に関連して本校独自に依頼しているスクールカウンセラーについて、SSH、SGHの対象生徒についての質問があり、それぞれ担当から回答した。SSH、SGHと教員の負担過多になっていないか指摘のあった件について、別組織のPTを設けるなどし、仕事量の均等化に配慮していると回答した。 <p>第3回(3月5日開催)</p> <p>議題【「平成26年度学校経営計画及び学校評価」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、第2回協議会でも出されていた「本校の様々な取り組みが成果を上げている一方で、教員の負担過多になっていないか」との意見について、負担の軽減を図るため、H27年度より組織改編を行うことに加えて、これまで以上に外部の力を活用する旨説明した。 ・本年特に国際交流プログラムが充実したことを、委員の皆様から高く評価していただいた。その中で参加しなかった生徒にはどのように発信しているのかとの質問に対しては、始業式・終業式で紹介したり、図書館でのテーマ展示を利用して広報していると答えた。 ・保護者対象の畷高アンケート(学校教育自己診断)で「授業が分かりやすく充実している」「HPを見たことがある」の項目の評価が低いとの意見に対して、保護者向けの広報をさらに積極的に行っていくと答えた。 ・「平成25年度GLHS卒業時のアンケート結果」の中で、特に本校の結果が10校の平均を大きく上回っている項目①「部活動と学習の両立」、②「学校生活は充実していた」、③「この学校を卒業することを誇りに思う」、④「後輩の役に立ちたい」について説明した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路を実現させるための学習指導の充実	<p>(1)「わかる授業、力が付いたと実感できる授業」をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア アクティブ・ラーニングの実践</p> <p>イ ICTを活用した授業改善</p> <p>ウ 生徒の自学自習環境の整備による自学自習力の育成</p> <p>エ 各教科と「課題研究」との有機的な関連付け</p> <p>(2)生徒の進路実現につながるカリキュラムの点検と開発</p> <p>ア 65分授業や少人数指導の効果検証と指導方法の改善</p> <p>イ 大学入試及び生徒のニーズに対応した教育課程の検証と見直し</p>	<p>(1)</p> <p>ア アクティブ・ラーニングに関する外部講師を招いての研修会及び研究授業の実施</p> <p>イ タブレット型PC及び電子黒板を使った授業の導入</p> <p>ウ 1年生全員を対象に学習合宿（7月淡路島）を実施し、2,3年生は校内での自学自習を基本とし、補習・講習を充実させる。</p> <p>エ 生徒の課題研究テーマに応じた教員の指導体制の充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 65分授業及び少人数授業における指導方法の研究を行い、授業改善につなげる。</p> <p>イ 新課程に伴う入試科目等の変更に対応したカリキュラムの見直しを検討する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 外部講師を招いての校内研修、校内での研究授業及び校外での研究授業に全教員がいずれか最低1回参加する。</p> <p>イ すべての教科において、ICT機器を使った授業を1回以上実施する。</p> <p>ウ 自習室の利用者数を全校生徒の50%以上(H25は38%)にする。</p> <p>エ 課題研究の校外での発表会で10本以上の発表をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア、イ 授業アンケートの満足度の平均を85%以上(H25 82%)にするとともに、畷高アンケートでの65分授業に対する生徒満足度を80%(H25 70%)以上にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア アクティブ・ラーニング研修は12月8日に京大の溝上慎一教授を講師として実施し、55名が参加。校内研究授業は6月、11月に実施し、各教員が相互に授業を見学。2月には初任者3名の公開研究授業を実施し、のべ48名が見学。(◎)</p> <p>イ ICT利用の授業は確実に増加し、プロジェクター、白板の購入によりさらに利用しやすい環境が整備され、すべての教科でICT機器を活用した授業が展開されている。(◎)</p> <p>ウ 食堂の自習室利用が可能となり、考査前および考査中の利用が増えた。全体としては51%が自習室を利用した。(○)</p> <p>エ 横浜全国大会、大阪サイエンスデーでプレゼン2本、ポスター8本の発表、他校の研究発表会に2本参加した。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア、イ 授業アンケートの満足度は第1回(7月実施)が83.7%、第2回(11月実施)が85.2%となった。65分授業に対する満足度は75%で昨年を5ポイント上回った。(○)</p> <p>イ 新課程への完全移行及びSET(スーパーイングリッシュティーチャー)の導入に向けてH27からのカリキュラムを変更した。(○)</p>
	社会に貢献する人間力あふれる人材育成	<p>(1) 基本的生活習慣及び規範意識並びに人間関係構築力の醸成</p> <p>ア 生徒会活動、部活動のさらなる充実と活性化</p> <p>イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導の徹底</p> <p>(2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力の育成</p> <p>ア 発表の機会の充実とレベルアップ</p> <p>(3) 国際交流活動の充実</p> <p>ア 台湾及びオーストラリアに加え、ドイツ及びASEAN諸国との交流の開始</p> <p>イ SETを導入による実用英語力の向上</p> <p>(4) 地域への貢献活動の充実</p> <p>ア 四條畷市の「エネルギーインフラプロジェクト」への連携協力</p> <p>イ ドイツのメアブッシュ市及び四條畷市内の小中学校との交流も進める。</p> <p>ウ 部活動や学校行事等を通じた地域交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア 新入生歓迎会や日々の活動を通して生徒会活動や部活動の魅力を生徒に伝え、さらに充実した生徒会および部活動にする。</p> <p>イ 全教員による指導方針の共通理解と指導の徹底を図る。また、登校時の指導を通じて、挨拶や交通マナー、遅刻の防止の徹底を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 「情報プレゼンテーション大会(霜月杯)」、「英語暗誦大会(如月杯)」、課題研究成果発表会、SSH合同発表会など校内での発表の機会を充実させるとともに校外での発表会への参加での入賞をめざす。</p> <p>(3)</p> <p>ア 台湾、オーストラリアとの相互訪問に加え、ドイツ及びASEAN諸国とのネットによる交流や留学生との交流を行う。</p> <p>イ SET導入に向けた準備として外部講師を活用したデモ授業を行う。</p> <p>(4)</p> <p>ア 四條畷市と本校関係者によるエネルギー会議を定期的に開催する。</p> <p>イ メアブッシュ市とのネット交流に四條畷市内の小中学校も参加し、交流を広げる。</p> <p>ウ すでに実施している部や行事に加えて、他の部や行事についても積極的に地域の方に参加していただけるように広報する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 畷高アンケートにおいて、「生徒会活動への積極的な活動」を70%(H25は60%)にする。部活動への加入率90%を維持する。</p> <p>イ 遅刻回数を前年度より10%減らす。(H25のべ1,486名)</p> <p>(2)</p> <p>ア 校外でのコンテスト等への入賞10名以上(H25は7名)をめざす。</p> <p>(3)</p> <p>ア 留学生との交流の機会を年2回以上設定する。ドイツ及びASEAN諸国とのネットを通じた交流を開始する。</p> <p>イ TOEFLiBTチャレンジ講座40名の受講と60点以上10名(H25 3名)をめざす。</p> <p>(4)</p> <p>ア 四條畷市の「エネルギーインフラプロジェクト」に関する教職員研修会の実施と生徒対象の講演会の実施。</p> <p>イ メアブッシュ市の交流先の決定と小中学校も含めたネット交流の開始。</p> <p>ア、イ、ウ 四條畷市内中学校からの入学者数を定員の8%以上をめざす。(H26 6.7% H25 4.4%)</p>

学校組織運営の効率化	<p>(1)校内統合 ICT の導入に伴う組織改編 ア ICT に関連する業務全体の洗い出しと業務の効率化 イ 教職員の学校経営への参画意識の向上</p> <p>(2)畷プロジェクトチーム（以下畷プロ）の業務内容及び構成メンバーの見直し ア 畷プロと分掌や教科、学年との役割分担の見直し イ GLHS 事業及び SSH 事業の円滑な運営</p> <p>(3)一人一人の進路希望に応じた進路実現のための進路指導體制の充実 ア 「入れる大学」から「入りたい大学へ」に向けた進路指導の徹底 イ 教員対象のスキルアップ研修による全教員の進路指導力の向上</p> <p>(4)安全で安心な学校生活への環境整備 ア 保護者や関係機関との連携強化とともに、校内の生徒相談体制の充実 イ 災害や事故等発生時の連絡体制の徹底と円滑な対応</p>	<p>(1) ア 既存の情報処理委員会の組織を独立させ、より機能的な分掌となるよう検討する。 イ 学校の現状と課題の共有化を図り、改善策について議論の機会を増やす。</p> <p>(2) ア、イ 畷プロの三つの班を広報、SSH、GLHS 企画班（国際交流企画班改め）とし、GLHS 事業の役割を明確にする。</p> <p>(3) ア 生徒及び保護者に対する進路説明会の充実と大学見学会の精選を図る。 イ スキルアップ研修を年 3 回実施し、最新の進路情報の共有と進路指導のノウハウを学ぶ。</p> <p>(4) ア 生徒相談委員会の定期開催とスクールカウンセラーとの連携を強化する。 イ 防災訓練の定期実施とともに、生徒に対する防災教育についても導入する。</p>	<p>(1) ア 11 月までに新たな組織案をまとめ、平成 27 年度から稼働する。 イ 畷高アンケートにおいて、「教職員の意見反映」に対する肯定的評価を 70%（H25 50%）に向上させる。</p> <p>(2) ア 学校説明会への参加者数 2,000 名以上を維持する。 イ 畷高アンケートにおいて、「学校生活への満足度」90%を維持する。（H25 92%）</p> <p>(3) ア 京阪神 3 大学の現役合格 50 名以上（H25 52 名）、既卒者含めて 80 名以上（H25 84 名）を維持する。 イ スキルアップ研修への参加率 90%をめざす。</p> <p>(4) ア 生徒相談委員会を毎月 1 回開催するとともに、生徒相談室の常駐者の配置体制づくりをめざす。また、生徒相談に関する教職員研修を実施する。 イ 飯盛セミナーや課題研究において、防災に関する生徒向けの講演会を開催する。</p>	<p>(1) ア ICT 推進 PT として新たな分掌を設置し、チーム長は運営委員となることで他の分掌との情報共有と連携を円滑に行えるようにした。（○） イ 教職員の意見反映に対する肯定的評価は 41%と前年度を下回った。職員会議等の内規の見直しが大きく影響したと考えられる。改善策として、2 月に全教職員による意見交換会を実施した。（△）</p> <p>(2) ア 中 3・保護者対象の校内説明会は、4 回総計で参加者数 2,052 名（中学生 1,160 名、保護者 892 名）畷プロを解体して、広報 PT、国際交流 PT、SSH 推進 PT の 3 つのプロジェクトチームとし、それぞれのチーム長を運営委員とすることにより学校全体で情報共有と協働体制が円滑にできるようにした。（◎） イ 学校生活への満足度は 93%と昨年度を 1 ポイント上回った。（◎）</p> <p>(3) ア 京阪神 3 大学の現役合格者 41 名、既卒者含めて 74 名。（△） イ スキルアップ研修を 3 回実施し、平均参加率 90%。（○）</p> <p>(4) ア 生徒相談委員会を 5 回開催。SC 相談件数は 45 件。そのほかに、個別生徒のケース会議を適宜開催。SC の訪問回数を増やす（17 回→29 回）ことで、生徒、保護者、教員の相談体制を強化できた。（◎） イ 6,9 月に防災避難訓練を実施。さらに、9 月の体育祭時、府民 880 万人訓練に合わせて、落雷の危険から避難するためにグラウンドから校舎内に退避した。（○）</p>
------------	---	--	---	--